

令和3年度 学校評価総括表

奈良県立畝傍高等学校(全日制)

<p>教育目標</p>	<p>日本国憲法・教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、人権の尊重を基底とした民主的な社会の形成者として必要な資質を養い、豊かな文化の創造に寄与する心身ともにたくましい生徒の育成を目指す。</p>			<p>総合評価</p>
<p>運営方針</p>	<p>「地域との協働による高等学校教育改革推進事業(グローバル型)」の目的を踏まえ、課題研究や各教科、体験的な学習を有機的に関連させることにより、知・徳・体の調和のとれた、自主的・創造的でグローバルな視野をもった次代のリーダーの育成を目指す。</p>			
<p>令和2年度の成果と課題</p>		<p>本年度重点目標</p>	<p>具体的目標</p>	<p>B</p>
<p>○「地域との協働による高等学校教育改革推進事業(グローバル型)」に関連した課題研究の取組によって、生徒の課題発見、設定に関わる力、表現する力に向上が見られた。また、課題研究の中間発表により、より表現力を高めることができた。</p>		<p>(Communicate) 自己理解や他者との関わりをとおして、コミュニケーション力の向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自己についての省察や他者を思う心を養い、自分の思いや考えを正確に伝える力を育成する。 学校行事などの諸活動をとおして、様々な意見や考え方に触れ、合意形成を図ったり新しい発想を生み出したりする能力を高める。 	
<p>○課題研究の学習により、多角的な視点で考察ができるようになり、様々な問題に柔軟に対応していこうとするなど、生徒の意識変化が認められた。</p>		<p>(Collaborate) 社会の一員としての自覚を促し、他者と協働する能力を養う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 社会のルールやマナーを身に付けさせるとともに、自らを律する力を育成する。 様々な教育活動をとおして、自他の個性を理解して尊重し、信頼し合える人間関係が構築できるよう支援する。 集団内における自分の社会的な役割を意識させ、自らの在り方について考察させる。 地域や他の教育機関等との連携を推進する。 	
<p>○「地域との協働による高等学校教育改革推進事業(グローバル型)」校としてカリキュラム研究を進め、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図るカリキュラムを開発することができた。</p>		<p>(Consider) 探究的な学びをとおして、主体的に物事を考える習慣や論理的な思考力を養う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業公開や研修会などを積極的に行い、主体的・対話的で深い学び(アクティブラーニング)が各教科で実践されるように指導方法の工夫改善に取り組む。 各授業や課題研究等をとおして、知識・技能の定着や学習意欲の向上を図るとともに、思考力、判断力、表現力を育成する指導を実践する。 	
<p>○生徒が主体性をもち探究的な学びをより進めていけるように、学習到達度を示した課題研究のルーブリックを作成した。今後はそのルーブリックを踏まえた実践的な活用の研究を行うとともに、授業等への導入を図る。</p>		<p>(Challenge) 自分の夢や将来を見据えた進路を設計する力を養い、その実現に向けて弛まず挑戦する強い意志を育てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自らの在り方や生き方を深く考えさせ、将来を見据えた進路選択ができるよう、各教科・科目等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図る。 自己実現に向けて生徒自らが必要な情報を収集する力を養わせるとともに、様々な角度から適切な指導が行える体制づくりを図る。 	

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果 (A～E)		成果と課題	改善方法等	学校関係者評価 (結果・分析)及び 改善方法
総務企画	教育体制の整備と教職員の指導力向上に取り組む。	グローバル事業の取組や各種模試・調査等の分析を各分掌や各教科で定期的に行い、充実した教育体制を構築するとともに、進学指導やキャリア教育のより効果的な改善に資するための提案に努める。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各種アンケート等を定期的実施し、校内外からの意見をいただき整理することができた。学校評価をGoogleFormを利用して実施した。先生方にスムーズに回答していただいた。 ・授業アンケートでは各クラスでアンケートの趣旨を十分に説明していただいたので、自由記述の意見において記名する生徒が多くなり、授業改善に向けて生徒の願いを知ることができた。 ・昨年と同様に学校説明会を実施せず、学校紹介動画を配信し、リーフレットを県内中学校に郵送し、動画は生徒会生徒が作成した。コンパクトな学校紹介の動画のみの配信で、e-オープンスクール参加申込は950件であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入学生徒の実態を把握し、新課程導入や評価方法の改定を踏まえ、教育体制を見直していく為、委員会を立ち上げ検討する。 ・学校紹介の動画として、課題研究の取組についての説明や発表内容について作成し配信すればどうか。 ・来年度の学校説明会は文化創造館が工事に入るため、校内で実施する方法を検討する。 ・保護者アンケートもGoogleFormを利用し、数多くの回答が得られるように検討する。 ・動画で学校紹介を行っているが、学校のHPを充実させることで中学生への広報を推進していく。HP記載内容の更新を随時行う必要がある。 	概ね良好である。
		学校評価、生徒による授業評価、保護者アンケートを実施することによって、生徒の実態や保護者の意識を把握するとともに、教育活動を点検し教職員の指導力向上を目指す。	A	B			
	畝傍高校の特徴を周知するために広報活動と募集活動を推進する。	生徒会の協力を得ながら中学生対象の学校説明会を生徒主体で開催する。また、校外で実施される説明会等へも積極的に参加する。	B	B			
教育企画	課題研究に関わる	全教職員が共通認識をもって、「探究」の意義を理解し、課題研究の指導に取り組むことができるよう、授業担当者会議や研修等を定期的実施する。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度は未完に終わった年間計画を、最後まで進めることができた。 ・短時間で複数回の研修機会を設けることで、授業担当者の先生方に参加していただきやすい状況を形成できたのではないかと。 課題としては、臨時休校や自宅待機の生徒が生じた際に、十分なフォローができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料や指導案をまとめたものを、年度当初に一括してお渡しできるような準備をすすめながらも、引き続き研修の機会を適切な時期に持つことのできるよう計画する。 ・緊急時だけでなく、平時からネットやICT機器を活用することで、探究活動が持続できる環境づくりに努める。 	概ね良好である。
	幅広い視野をもち、社会の動きに対応できる生徒の育成	教科・科目での指導をはじめ、課題研究、公開講座、各種交流事業の意義を確認し、それぞれが有機的なつながりをもって、生徒のキャリア形成に役立てることができるよう、計画と調整をする。	B	B			
教務	学校の教育活動が円滑に運営されるよう、調整を行う。	時間割編成、考査と成績処理、類型科目選択、クラス講座編成、入試等、通常の業務を徹底するとともに、環境の変化や生徒の多様化に対応できるよう、方法や校内規定の点検を継続し、改善していく。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ①通常の業務について、先生方のご協力もあり、丁寧に対応することができた。「賢者」での処理も、先生方が慣れてくださり、順調である。 ②令和4年度からの新教育課程、評価、内規について、教務部内で討議して、よりよい形を準備できた。だが実際に運用すると様々な課題が出てくるものと思われる。 ③コロナ対策の動画→映像授業について、機器の準備などできる限り対応することができた。先生方にも慣れてきていただいている。また、生徒達もよく参加してくれている。 ④BYODの実施に当たり、端末の運用方法、各教科での利用方法、いつでもすぐに活用できる環境をどう作るか、電源の確保など、課題は満載である。 ⑤今年度2年目となる授業研修は参加しやすい形で、多くの先生方が参加して下さった(参加率72.1%)。有効に機能している。 	<ul style="list-style-type: none"> ①引き続きご協力をお願いします。 ②来年度から実際に運用していきながら、課題の発見・調整・解決をしていく必要がある。また先生方対象の研修会の実施や、日頃の処理一つ一つを確認・徹底していく必要がある。 ④来年度はまず全員が端末を持つのはいつか、というところから始まる。手探りでやりながら態勢を整えていかねばならない。 ⑤来年度は1学期の授業観察の期間にも先生方に呼びかけ、一層参加しやすい形にする。 	概ね良好である。
		令和4年度からはじまる新教育課程にスムーズに移行するため、評価の工夫や日程の調整、また校内内規の見直しを含め、よく考えて準備していく。	B				
		非常変災等の突発的な出来事が起こったときに、柔軟に対応する。	A				
	特色ある学校作りを目指し、教育活動の工夫改善を行う。	生徒の自己実現と充実した高校生活とに資するため、授業時間の確保と学校行事や特別活動の豊富さが両立できるよう、バランスをとっていく。	B	B			
		生徒が主体的に学ぶための授業改善の一助として、教員が無理なく積極的に参加できるような研修のあり方を考えていく。	B	B			

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果 (A~E)	成果と課題	改善方法等	学校関係者評価 (結果・分析)及び 改善方法		
生徒指導	基本的生活習慣の確立	毎朝、登校指導を実施するとともに、遅刻カードを活用した指導により不注意による遅刻を防ぐ。 継続的な服装・頭髪・遅刻指導等を通じて、規範意識を高めさせる。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的に遅刻指導を行い不注意による遅刻は減少してきている。今後は始業時間直前に登校する生徒、数分の電車遅延を理由に急ぐことなく登校する生徒に対する指導を強化していきたい。 ・服装頭髪点検を一斉に行うことができず、各クラスで実施していただいた。正しく制服を着用する生徒が増えていっているなかで、自分が納得出来ない規則、教員から直接注意を受けない規則については、守る必要がないと勘違いしている生徒が少なくない。制服規定を生徒会とともに変更したことなどから、校則を自分たちのものとして守ってほしいとする態度を身に付けさせたい。 ・ロッカー周辺・更衣室等の私物や、落とし物については改善傾向にある。個人ロッカーや教室の施錠を徹底させ、引き続き「モノを大切に、適切に管理する」という意識の高めさせたい。 ・本年度も登校指導については「見守り」に重点を置き指導を行った。多くの先生にご協力いただき、通学路における立哨指導を充実させたため、交通安全に対する意識・通学マナーは改善傾向にあると言える。生活委員、クラブ員、生徒会役員にも参加してもらい挨拶運動を強化し、以前よりも活気が出たと感じている。今後は、どのような場面であっても礼節を大切にしよう心掛けさせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・規律があり、それが守られている集団の中で過ごす、居心地の良さを感じ合わせる指導が必要である。そのためには繰り返し粘り強く、生徒と向き合い導く努力が必要であり、教師相互の共通理解と連携を密にしきめ細かい指導に努める。 課題に対する具体的方策としては、 ・遅刻生徒に対する個別指導の充実。公共交通機関の延着に起因する遅刻の取り扱いを協議する。 ・制服規定変更を一つの機会とし、規律を遵守することの大切さを理解させる。 ・私物に対する記名を確実にさせ、モノを大切に・私物の管理を徹底するという意識を醸成させる。 ・交通安全教室を実施することで、道路交通法規の遵守、交通マナーの向上につなげる。 ・時差登校・分散登校を継続させることで混雑の緩和を図る。 ・挨拶運動、登下校指導を継続するとともに、言葉遣いや職員室、研究室等へ入退室時のマナー指導も強化する。 ・スマートフォンの利用については、安易な考えや身勝手な行動が大きな問題になり得ることを自覚させ、BYODの実施に伴い、生徒会とともに利用規程を策定する。 	概ね良好である。		
	貴重品の管理	私物の記名、教室・部室・個人ロッカーなどの施錠を徹底させる。 個人ロッカー周辺の放置私物の指導を徹底し、自己管理意識を高めさせる。	A					
	通学マナーの向上	自転車通学生に雨合羽着用など事故防止対策を推進する。 時間差登校・分散登校を実施するとともに、登下校指導を通じて交通法規及びマナーを遵守させ、安全意識を高めさせる。	B					
	活気ある学校づくり	生徒会・生活委員・クラブ員による挨拶運動を拡大し、教員による登下校指導・通学路指導とも融合させ、活気ある学校づくりを目指す。	B					
	生徒の「心の健康」の増進を図る。	電子掲示板を活用し、「心の健康」に関する情報を発信する。 スクールカウンセラーとの連絡・情報交換を適切に遂行し、相談活動を円滑に行う。 新型コロナウイルスの影響による生徒の心のケアについては、いつも以上に配慮する必要がある。	B				<ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラーとの連絡を密にとりながら活動を行った。早期の対応で効果の見られた事例もかなりあった。 ・カウンセラーの交代に際し、クライアントをスムーズに引き継ぎしていただけた。 ・自宅待機や不登校生との心のケアに取り組むことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任の先生方の適切な対応に助けられているが、早め早めの対応が重要となっている。親子関係が起因している事例も多く、親子そろってのカウンセリングも有効な手段になっている。 ・リモートによる面談等ができないか検討したい。
	教職員向けに、教育相談に関する情報・研修の機会を提供する。	年2回の職員研修を企画し、生徒理解を深める一助とする。 外部の相談機関との迅速な連携に努めるとともに、研修事業の情報を遅滞なく伝達する。	A				<ul style="list-style-type: none"> ・職員研修では、先生方のご協力をいただきながら、要配慮生徒について、共通理解を深める取り組みを行った。 ・生徒の自殺予防をテーマに、スクールカウンセラーから、全職員対象の講義をしていただいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の状況把握と、先生方の取り組みの成果を共有できるような研修を進めたい。 ・外部機関の研修講座なども、多くの先生方に参加いただけるように情報伝達をしていきたい。

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果 (A~E)		成果と課題	改善方法等	学校関係者評価 (結果・分析)及び 改善方法
特別活動指導	生徒による自主的・創造的な生徒会活動を推進する。	生徒総会や様々な生徒会行事について、自治の精神に基づき、役員が中心となり、生徒主体の活動となるように指導する。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・畝高祭、リーダー研修会、通学路清掃、賞状伝達、生徒会役員選挙などは、コロナ感染対策のため様々な制約を受けたが、その都度工夫をして実施した。放送やClassroom及びGoogleMeet等の利用が有効であった。 ・畝高祭は、昨年同様コロナ感染対策を考慮し、文化創造館での鑑賞者削減を目的に、パブリックビューイングのスタイルをとった。その他、食品バザーを始めとして様々な制約に対して工夫を凝らし、現状で実施出来る畝高祭を実施した。多くの生徒にとっても思い出に残る文化祭を作り上げたという達成感の持てる行事となった。 ・全校生徒が集まる機会が全く取れない状況で、生徒会の活動をアピールする場が少なかったが、放送や動画配信等を有効に使い、現状での可能な取組が出来たと考える。しかしながら、対面での活動ができない状況では、生徒会の活動を十分にアピールできない場面もあった。次年度も、コロナ感染対策の影響もあると考えられるため、更に工夫が必要である。 ・学校の活性化を図る上でも生徒会役員の働きは大きく、様々な学校行事に生徒を牽引し、その役割を十分果たしてきた。生徒の多くが募金や通学路清掃などのボランティア活動に参加している。しかし積極的に取り組んでいる生徒は一部であり、主体性に欠ける生徒もいる。 ・それらの活動の趣旨を理解し、自発的に取り組もうとする生徒が多くなるように、様々な問題への関心や気づきを増やすために、生徒会が中心となって、生徒個々の意識を高める工夫が必要と考えられる。 ・生徒会選挙においては、コロナ感染対策での出席停止の生徒も多く、立会演説会の配信やオンライン投票を行った。 ・服装に関する件で、全校アンケートを行い、生徒指導部と生徒会との話し合いを行い、靴下の色についての変更を決めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの生徒にとって、生徒会が自分たちの活動であることを感じるられるような企画やはたらきかけをし、進める一方で、生徒会活動を伝える工夫をする。 ・多くの生徒が参加し活躍できる活動を増やし、行事や目的ごとに自主参加型の委員会を設け、生徒が問題に取り組む機会を増やすことで、様々な問題点を共有し、気づきを促して意識を高めていく。 ・生徒会役員の自主性を尊重しながら、一人一人の状況にも目を配り、しっかりと生徒会役員を支える体制を作る。特に畝高祭で役員の負担を軽減するため、生徒会サポーターズや実行委員会の役割を検討し、より多くの生徒が畝高祭を担うよう計画する。 ・畝高祭やその他の行事において、コロナ感染対策のための制限を受けることで実施方法の変更や様々な工夫をしたが、その内容は通常開催でも大変有効なものもあり、次年度にも活かしていきたい。特にインターネットを利用した配信やClassroom及びGoogleMeet等については更に研究していきたい。 	概ね良好である。
	生徒の意識を高める中で、互いに信頼しあえる学校づくり、さらなる学校の活性化を推進する。	通学路清掃や募金活動に多くの生徒が参加するよう指導し、生徒が社会参加について自ら考え、行動する資質を養い、社会性や責任感、ボランティア精神を育むように指導する。	B				
		畝高祭の企画を進化発展させると同時に、生徒全員が協力して魅力的な文化祭を成功・完成できるように指導する。	A				
			B				
	読書活動を推進する。	文化図書委員の活動を中心として、生徒が読書に親しむ機会を設定する。具体的には、「ライブラリーニュース」の充実、本の展示広報の工夫を行う	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会活動を「展示」と「ライブラリーニュース」に分担し、委員一人一人が役割と責任をよく果たしてくれた。 ・「ライブラリーニュース」では、生徒から推薦図書の発信を行い、「金魚のあぶく」では、図書館から新着図書をいち早く紹介し、読書活動の推進と図書館利用の機会の増加を図った。また「課題研究」の資料検索の一助にもなった。 ・文化部発表会は、一昨年度より畝高祭の日程の中で実施することとなった。本年度はコロナ感染対策の影響のため鑑賞者を縮小してではあるが、畝高祭の一環として、舞台進行などの運営を生徒が主体的に取り組めた。 ・「学習マンガ総選挙」と題して、全校生徒に本のリストを提示し、希望の本を投票してもらい、学習マンガを購入した。 ・芸術鑑賞会は、古典芸能(落語、講談)を、各学年毎に3回の公演に分けて行った。コロナ感染対策の制限の中、様々な工夫をして開催したが、十分な成果を上げることができた。 ・かるた大会は、1年生のクラスを2つのグループに分けて、2回実施となった。例年と異なる実施方法のため様々な工夫が必要となったが、大きな問題も無く終了した。 ・今年度は、ビブリオバトルや座談会(食物部とコラボ企画)、文化講座「音楽科演奏会」も実施でき、計画していた行事がすべて実施できた。次年度は、文化創造館が使用できないため、それぞれの行事について、時期や内容を検討していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書委員がさらに読書に興味を持ち、アピールする場を増やし、委員会活動や文化行事に積極的に参加するよう、一層の工夫を行う。ビブリオバトルや読書会の内容や実施方法を検討していく。 ・「金魚鉢通信」や「ライブラリーニュース」「金魚のあぶく」で本の魅力を発信しながら、更に読書活動の推進を図っていく。 ・「課題研究」において、図書館が調査研究の場として支援できるように、図書の紹介を始めとした図書館の更なる活用等を工夫・検討していく。 ・行事の実施にあたり、配信やClassroom及びGoogleMeet等の活用も検討していく。 ・文化行事の企画運営に、更に生徒達が主体的に参加できるように、教員と委員とのより良いコミュニケーションを図る。また、新たな企画についても検討する。 	
	図書館が生徒にとって身近なものになるように、「金魚鉢通信」や「金魚のあぶく」及び掲示板の活用などの広報活動の工夫、参加しやすい読書会の企画開催、授業での利用の推進、文化部との連携を行う。	B					
	生徒が主体的に行動できる文化行事を企画運営する。読書オリエンテーション、芸術鑑賞会、新春小倉百人一首かるた大会、ビブリオバトル等の文化講座を生徒が運営し、参加できるように実施する。	B	B				

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果 (A~E)		成果と課題	改善方法等	学校関係者評価 (結果・分析)及び 改善方法		
進路指導	進路を自主的に選択・決定できる力を育成する。	「志望校調査」や「先輩の話を聞く会」の実施、進路情報誌等による大学の学びについての情報提供、職場体験事業の紹介などを通して、生徒の進路選択の意識向上やキャリア意識の醸成を図る。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生対象の先輩の話を聞く会では、生徒からの質問形式による新しい方式を導入したことにより、生徒にとって効果のあるものとなった。 ・京都大学見学会は現地訪問ができなかったが、オンライン方式での新しい方式で実施することができた。 ・県立教育研究所が主催する「インターンシップ」への参加や県教育委員会が主催する「次世代教員養成プログラム」への参加を促した。 ・キャリア教育を意識し、ホームルームの充実を図りながら、民間業者が主催するオンラインでの大学のミニ講義の案内、各大学が主催するオープンキャンパスの案内等を通して生徒の進路目標設定のサポートに取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の情勢にもよるが、来年度の京都大学見学会は現地訪問を行い、生徒のキャリア意識の育成や進路保障につながる取り組みをより一層深めていく。 ・新しい教育課程や入試制度と関連付けて、高大連携・高大接続の意識の醸成と、生徒が社会の変化に主体的に対応できる力を身につけさせる。 ・コロナ禍の状況で社会情勢が不安な中、生徒・保護者が安易に妥協する進路選択ではなく、本当に目指したい進路選択を行う指導に一層取り組む。 	概ね良好である。		
		各学年と連携し、進路ホームルームや総合的な学習の時間の充実に努め、生徒の進路実現に役立てる。	B						
	進路目標達成に向けて支援を行う。	生徒の進路目標実現のため、生徒及び保護者へのさまざまな情報の発信に努める。	A	B				<ul style="list-style-type: none"> ・渉外部と連携しながら保護者対象の進路講演会を7月と2月に実施することができた。また、7月の進路講演会では本校の取り組みを伝える機会が無かったため、紙面にて講演内容を全ての保護者に配布した。 ・本校の指定校推薦に対する考え方を2年生の後半から生徒・保護者に伝えることを可能にする仕組みを作ることができた。 ・生徒の状況が多様化する中、全員受験の模試では全職員の協力を得ながら、事前受験や当日欠席者等にも対応することにより、ほぼ全員の生徒が受験に取り組むことができた。 ・模試対策講座やLHR等で模試の振り返りを行った結果、生徒に模試の復習の重要性を意識づけることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で、年間行事計画が変更され、2年生の7月下旬に予定していた夏期講習が中止となった。来年度は得意科目を伸ばす趣旨の夏期講習を実施したい。 ・今年度の共通テストの結果から、本校の3年間の進路指導計画を踏まえた上で、共通テストに向けての対策と個別試験に向けての対策のバランスを再検討していく。 ・生徒・保護者に入試制度の変化や直近の志望動向を意識しながら適切な情報提供を行い、安心して受験に臨める体制作りを進めていくとともに、本校の進路指導の方針や取り組みを常日頃から伝えていく。
		進路目標達成に向けた学力を確立するため、校外模試への取り組みや各期講習・土曜講座等の充実を図る。	B						

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果 (A~E)	成果と課題	改善方法等	学校関係者評価 (結果・分析)及び 改善方法			
人権教育	生徒の人権意識をより確かなものとするとともに、主体的に取り組む姿勢や実践力を身に付けさせる。	毎月の「人権を確かめあう日」の取組を確実に実施し、生徒が社会や日常生活における人権問題に関心をもち主体的に取り組めるよう、内容の充実を図る。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「人権を確かめあう日」は年間8回(号外2回を含む)発行予定である。そのうちの2回分は、生徒が記事を選定しコメントを作成した。生徒の視点を反映した記事選びやコメントは、生徒たちから好評価を得ている。今年度は昨年度に比べ、生徒が作成する機会が少なかったが、その反面、人権学習に関するアンケート結果の概況や提言や批判があった意見に対応したコメントや記事を掲載しフィードバックに努めた。 ・人権教育HRをより充実したものにするために、講師の先生を招聘するなどしてHRの事前研修の充実を図った。各先生方から指導案を提案していただく機会を設けるといった研修のあり方も検討したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「人権を確かめあう日」については、生徒が関わる機会を今後も設け、生徒自身が人権課題により関心をもち主体的に取り組む機会となるよう工夫する。 ・人権教育HRについては、現在は人教部がHRの原案を提示しているが、各先生方の工夫に富んだ指導案を共有していくためにも、事前研修の持ち方を検討していきたい。 				
		人権教育HRでは、生徒が主体的に取り組むことができるような内容及び展開方法を考え工夫する。	B						
	人権教育行事に取り組むとともに、解放研活動の再建を図る。	人権講演会及び人権芸術鑑賞会の内容を充実させ、事前事後指導の手立てを設けることで、得られたものを確実なものとする。	B				<ul style="list-style-type: none"> ・人権芸術鑑賞会は、実施に向け会議で検討を重ねていただいたが、実施にはいたらなかった。 ・解放研は部員2名のみであるが、高解研の広報誌「Freedom」に部員が寄稿するなど地道な活動を継続することができた。新たな部員の確保と活動の拡充が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度は文化創造館の改修工事があるので、実施の有無から検討したい。ただし、生徒に大変好評の行事なので、行事そのものは再来年度以降も継続する方向で考えていきたい。 ・他校生との交流や研修会への参加など解放研の活動の幅を可能な限り広げていくとともに、活動を継承してくれる生徒の発掘に努めたい。 	概ね良好である。
		生徒が互いに支え合い、信頼し合える人間関係の構築に努めるとともに、解放研活動の充実を図る。	B						
	教職員自らの人権意識を高め、保護者との連携を深める。	生徒の課題の把握と理解に即した研修を計画し、全体研修を年2回以上実施する。	B				<ul style="list-style-type: none"> ・全体研修を2回実施した。11月実施の拡大職員研修では、「多様な性を考える」をテーマに講師の先生を招聘しての研修を企画した。参加して下さった保護者や先生方の、講演内容に対する評価は大変高かった。 ・本校人権教育の個々の取組を、啓発紙「熱れ」にまとめた。「熱れ」の内容を三者面談で取り上げてくださっているクラスもあり、本校人権教育の取組について保護者に伝える良い機会になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員研修については、色覚の多様性についての研修を希望する先生方の声があるので、可能な限り先生方のニーズに合った講師選定や内容をめざしたい。 ・今後も「熱れ」「人権を確かめあう日(号外)」などを発行し、保護者への啓発活動を継続したい。 	
		保護者向け「熱れ」を年4回発行し、生徒の状況を知らせるとともに保護者への啓発紙とする。	A						
保健体育	健康の実態把握及び保持増進のための啓発に努める。	健康診断を円滑に実施し、すみやかな医療勧告を実施する。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症のため、健康診断の日にちを変更した。感染予防のために情報を提供し、消毒液等を準備した。 ・生徒保健委員会活動として予定していた救急法講習会は、今年度も実施できなかった。日程や方法を検討し、実施していきたい。 ・保健室利用者に対して担任の先生等と連携し、また、保健室利用の多い生徒や心がしんどい生徒に対しては、スクールカウンセラーとも連携をとった。今後も先生方と連携を取りながら、支援していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任やスクールカウンセラー等と連携し、心身ともに健康な高校生活を送れるように支援したい。 ・保健だより等の発行を増やし、健康の保持増進のため、情報を提供したい。 ・緊急時に対応できるように保健委員や職員を対象にした救急法講習会を実施したい。 	概ね良好である。			
		保健室利用者について保健室利用カード等を活用し、担任等と連絡を密にする。	A						
		掲示物等を活用し健康の保持増進のための啓発活動を実施する。	B						
	体育関連行事への意欲的な参加と安全に配慮した運営をする。	保健体育の授業時の指導を通じて、記録等に関する生徒の意欲や向上心を高揚させる。	B				<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響はあったが新体カテストについてはすべての種目を測定することができた。昨年度はいくつかの種目の測定が出来なかった為3年生の1年次のA判定の比較をしたところ1年次男子は21名女子38名でしたが、3年次男子38名、女子24名と男子が増加し女子は減少しており全体では3名増であった。今年は1年生男子27名、女子47名2年生男子31名、女子36名と男子より女子の数の多い傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で球技大会は中止となった。新体カテストは感染対策をして実施した。 ・体育大会については10月中は競技場の使用ができず11月実施は無理と判断し学校で、学年別の半日実施として実施種目や実施方法等、感染対策をして実施することができた。来年度もどのような状態になっているかわからないため今年度同様の心づもりが必要ではないかと思われる。 	
職員会議、体育委員会を通じて、職員および生徒に申し合わせ事項を徹底させる。		B							
体育委員および各運動部員も運営に参加させながら、安全に配慮した計画のもと、充実した活動を目指す。		B							

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果 (A~E)		成果と課題	改善方法等	学校関係者評価 (結果・分析)及び 改善方法
環境整備	校舎内外の整理 整頓・点検整備を 進める。	安全点検を年2回実施して集約を提示し、教職員の共通理解のもと安全・安心な学習環境の確保に努める。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 安全点検は年2回実施し点検出来ているが、点検結果などを全ての先生方に伝えることも検討してもよいかもしれない。今後の検討事項である。 普段のゴミ分別は、ほぼ出来ていると思われるが、ゴミの減量については、今後もっと啓発が必要だと思われる。 文化祭や体育大会は、行事が縮小されていたので、ゴミは大幅に減量した。 日常の清掃は、生徒達が真面目に取り組んでくれているが、階段等にほこりがたまっていることがあり、気になる。 春秋の落ち葉清掃は、整備委員が自らの担当を休むこと無く熱心に取り組んでくれた。 校舎内外で、業務員さんが、非常に丁寧に清掃してくださっている。このような普段目に見えない活動にも感謝の気持ちを持って育みたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内美化の状況やゴミ分別の現状を生徒の委員などを通じて、生徒全体に発信する機会があれば良い。 循環型社会の実現やSDGsの取り組みとも関連させて、電子掲示板による啓発や「環境だより」のようなプリントを出して、生徒や職員の意識向上に努めたい。 整った環境の中で、学校生活を送ることは、生徒自身の健全な心の基盤になるものだと意識して伝えていきたい。 コロナ禍で行事が度々変更されたりして、日常の清掃や、大掃除がなおざりにならないように工夫したい。普段から、自分の持ち物を大切にする気持ちや、公共材を大切にする姿勢、人やモノや環境に感謝する気持ちを折に触れて伝えていきたい。 	概ね良好である。
		循環型の社会を目指し、リサイクル分別回収の活性化を図るとともにゴミの減量をめざす。	B				
		校内美化に関する情報を定期的に発信する。整備委員を中心としてロッカー周辺の清掃・整備を行う。	B				
		体育大会、文化祭などの学校行事において、ゴミの減量やリサイクル、清掃の徹底を図る。	A				
	自主的な清掃・美化活動を推進する。	日常の清掃にきめ細やかに取り組む。特にトイレ清掃の徹底を図る。	B				
		整備委員を中心に校庭の落ち葉掃きを定期的実施する。	A				
年2回の床面塗油を計画的に実施し、歴史のある校舎を大切に育む。		B					
渉外	育友会活動を精選するとともに、その充実を図る。	育友会関係の行事を精選し、本部役員を中心とした育友会活動が円滑に運営できるようにする。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の中、本部役員を中心に出来る範囲で工夫しながらいくつかの事業を実施し、活動することができた。 コロナ禍収束後に、実施してきた事業の精選を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍対策及び文化創造館の耐震工事対策として、事業のオンライン化(案内、参加申し込み、事業運営)を今後検討していく。 	概ね良好である。
		育友会活動についての情報発信に努めながら、学校と家庭の連携を密にする。	B				
	同窓会との連絡・調整を円滑に進める。	来年度の金鷄会創設100周年記念事業に向けて、金鷄会事務局の準備や取組が円滑に進むよう協力していく。	B				
事務	学校生活における安全の確保及び環境整備に努める。	定期的な巡視を行い、不良箇所などを早期に発見するとともに、計画的に修繕・補修を行い、大震災を見据えた生徒の安全対策が図れるように努める。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 施設・設備の老朽化が進んでいるため、安全面や予算面を勘案し、優先順位の高いものから順次修繕・補修に取り組んだが、不良箇所は、新たな発生もあり多数見受けられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 優先順位を精査し、計画的な修繕・補修に取り組むとともに、危険箇所の発見にも努め、関係部署に対し予算要求を行いながら、効果的・効率的な執行を図る。 	概ね良好である。
	光熱水費等学校管理経費の更なる節減に努める。	厳しい県財政の状況下において、一般管理経費などの節減は所属としての目標設定が不可欠である。令和3年度は、光熱水費を含めた管理経費の執行額を前年度以下にするように努める。	B				

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果 (A～E)		成果と課題	改善方法等	学校関係者評価 (結果・分析)及び 改善方法	
第1学年	自ら考え、行動できる生徒の育成	学習活動の様々な場面で、「自分は、なぜ、そうするのか」「自分は、今、何をすべきなのか」を常に考えさせることで、自ら考え主体的に行動する習慣を身に付けさせる。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動の様々な場面で、自ら情報を収集して自分に必要なことを考え判断して、「今、すべきこと」や「何をしなければならないか」を理解している生徒は多い。その反面、指示されない限り何も行動に移さない生徒もまだまだ多い。常に、「なぜ、そうするのか」や「そのためには、どうすればいいのか」を考える習慣を身につけさせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業や学校行事など様々な活動において、教員側から一方的に目標ばかりを提示するのではなく、「目的は何か」を明確に示し、また、それを生徒自身に考えさせる機会を多くしていく。 教員が指示した方がスムーズに行く場合があり、どうしても言ってしまうようになるが、少し我慢して生徒に任せてみるという「待ち」の姿勢を大事にしていく。 	概ね良好である。	
	規範意識の向上	全職員の共通理解のもと、服装指導や遅刻指導を行い、集団生活における規範の重要性を理解させる。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 入学当初は幼い面も見られたが、HR等を通じて、担任の先生からの指導もあり、次第にルールをわかまえて守るようになってきている。その反面、一部の生徒は、緊張感が徐々に薄れ、服装のだらしなさや遅刻の回数が徐々に目立ってきている。特に遅刻に関しては、同じ生徒が繰り返すことが多いため、遅刻者集会以外にも、家庭への連絡等を密にして協力をしてもらう必要がある。 情報モラルについては、特にスマートフォン等の使用において、ルールやマナー、生活習慣などについて、しっかりと考えれば、ほとんどの生徒が判断ができていく。ただ、それらを日常的に意識できるまではできていない。 	<ul style="list-style-type: none"> HR等で生徒の様子を注意深く観察するとともに、始業式等の服装と頭髪検査だけでなく、HR時や教科指導時、廊下での会話のとき、また部活動など、あらゆる場面で統一かつ継続的に指導を続けていく。また、3学年を通じた学校全体としての一貫した指導が必要である。 SNS等の利用については、外部の専門家から話を聞く機会を設け、できるだけ早い時期に問題を提起し、正しい認識をもたせていく。また、時代状況を踏まえ教員側も議論を重ねて、その後も様々な角度から継続的に指導をしていく。 		
		学習活動のあらゆる機会を通して、社会におけるルールやマナー、特に情報モラルを身に付けさせる。	B					
	豊かな心の育成	ホームルーム活動や授業、学年集会などを通して、他人の立場で物事を考えることができる人材を育成する。	B	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 友人を思いやることのできる生徒が多いが、中には他人を不快にさせたり、時には傷つけたりするような言動も見受けられる。それらの中で、自分との関わりとして考えられるような態度を身につけさせたい。 全員の生徒が、自分のことだけでなく、他人にも気を配り、認め合う雰囲気をつくることできていない。 挨拶のできる生徒と自分からはできない生徒がいる。いつでも自然と挨拶が出てくるような雰囲気を作っていきたい。 		<ul style="list-style-type: none"> HRや授業の中で、グループ活動を行ったり、その成果を発表したりする中で、周りの人に自分の意見を伝えたり、また違った立場の意見を聞くことも大事である。また、一人でじっくりと考え、飾らない言葉で素直な感情と向き合う時間も大事である。その両方の機会をバランスよく与えられるような計画を立てていく。 特定の部活動や特定の学級で、礼儀やマナーの指導をするのではなく、職員も含めて学校全体がそのような雰囲気になるように意識を高めていく。
		学校生活において、職員からも積極的に挨拶を仕掛けて、挨拶の励行を推進し、活気のある学校生活が送れるようにする。	A					
	全ての教科において、基礎・基本の定着と進路目標の設定	全ての教科において、基礎・基本の重要性や有用性を授業で説明し、自主的な家庭学習を習慣化させ、学力の向上を図る。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 学習への取組は、入学当初と比べて、徐々に自分のペースをつかんで、こつこつと努力している生徒が多い。しかし、家庭での時間の使い方はまだまだ不十分である。スマホ利用の頻度など、受験期を迎える前までに自己管理をきちんとできる体制を作っていきたい。 進路に関して、オープンキャンパスなどは新型コロナウイルス感染症の影響で、ほとんどの大学でオンラインになっているので、なかなか積極的に参加できていない状況が続いている。その中でも何人かの生徒は、エンパワーメントプログラム等の講習に、自らの進路を考えながら参加している。 		<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人一人に目標を明確にさせ、授業を大切に指導を継続していく。 学習と部活動等の事も考えながら、生徒がバランスのよい学習ができるよう、その時々で生徒の状況に応じた課題の与え方を考える。また、学習に悩みを抱える生徒に対して、こまめに声をかけ、個別指導や補習などきめ細かい指導を継続していく。 自らの目標をきちんとたせ、その中で、進路関係の情報などは、紹介することだけでなく、どのような分野につながるかや、どんな能力を身につけられるものなのか等、できるだけ具体的な提供の仕方に努めていく。 オープンキャンパス等に参加した生徒に報告書等を作成させ、クラス内で閲覧させるなどして共有していく。
		進路ホームルームを通して自らの進路目標を設定させ、オープンキャンパスや大学見学会などへの参加を促し、進路選択への関心を高めさせる。	B					
	グローバルな視点をもって地域で活躍する人材としての基礎力の育成	学校設定科目を含めた日々の授業における探究活動を通して、基礎的かつ専門的な知識および研究技能を培い、課題研究を行う上で必要な基礎力を高めさせる。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 学年の教員間で、課題研究の展開方法や今後の見通しの共通理解を図り、次年度に向けて準備を進めている。生徒たちも「気づきノート」から課題研究への興味・関心が芽生え、徐々に課題研究への意識が高まってきているように感じる。また、長期休業明けの「研究内容の交換会」での生徒たちの積極的な様子を見て、改めて、このような活動の重要性を実感した。 		<ul style="list-style-type: none"> 自らの課題を探究し、他者と協働する面白さや達成感を生徒一人一人に味わわせるためには、全職員のサポートが必要である。課題研究の進め方等、教員同士が共通理解するためにはかなりの時間を要すると考えられるため、定期的に連携をはかる機会をもつことが大切である。
生活の中のあらゆる場面で課題を発見し、その課題を掘り下げさせることで、グローバルな視点と主体的に思考し行動する力を養う。		B						

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果 (A~E)		成果と課題	改善方法等	学校関係者評価 (結果・分析)及び 改善方法
第2学年	自ら考え、行動できる生徒の育成	学習活動の様々な場面で「今、何をすべきなのか。自分は、なぜそうするのか。」を考えさせることで、常に自ら考え主体的に行動できる生徒を育てる。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> やるべきことがはっきりしていることや、指示されたことについては、真面目にきちんと進めていける生徒が多く育っている。 主体的に行動できる生徒も徐々に増えてきているが、まだまだ少ない。様々な場面で常に自分で考えて行動する習慣を身につけさせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 細かく指示を伝えるべきときと、生徒に考えさせるべきときを、区別して指導する。 教員が指示した方がスムーズにいく場合が多いが、できるだけ生徒に自分は何をすべきか考えさせる機会を作っていく。 やらされているという意識や、言われたとおりにしていればよいという意識を変えさせることが必要。 HRや授業を通して社会や企業が求める人材について話し、生徒に考えさせる。 	概ね良好である。
	規律ある生活習慣の育成	自己管理意識を高めさせ、遅刻が続く生徒には生活リズムの改善を促す。頭髪・服装等の生活指導に関しては全体で継続的に行い、生徒たちの規範意識の向上を図る。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 服装・頭髪について大きな問題はないが、細かいところで違反している生徒が少し増えてきた。 不注意による遅刻数は全体で見ると少ないが、生活習慣の見直しが必要な生徒も見受けられる。 スマートフォンやSNSの使用については、ルール、マナー、生活習慣、人権教育など様々な視点からの指導が必要。 生徒によって新型コロナウイルス感染症に対する意識に差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の様子を注意深く観察し、HRや教科指導時はもちろん、昼休みや休憩時間、放課後の会話時などでも職員共通の指導が必要。 学校全体としての規準を基に、3年間通して共通した指導を続けることが大切。 朝、担任が教室で生徒を迎えることで、遅刻や服装の指導はもちろん、生徒の日々の様子や変化を観察することもできる。 職員朝礼とSHRの間に時間の余裕がほしい。 スマートフォンやSNSの使い方などは、HR以外でも日常的に話をしていくことが大切。 	
	豊かな心の育成	ホームルーム活動や学年集会等を通して、自らの意識と向き合うような活動をより多く取り入れることで、人権尊重の精神を深めさせ、他人を思いやる豊かな心を育成する。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 周囲を思いやることができる生徒が多い。しかし中には他人を不快にさせる行動をとる生徒もいる。 研修旅行や畝高祭、体育大会など、様々な学校行事を通じてクラスの人間関係が深まった。 学年行事やクラスの活動では、自分の役割を考え、積極的に行動できる生徒が増えてきた。その反面、他人任せで終わってしまったり、自己満足だけで周囲と協力できない生徒もいるのが気になる。 与えられた課題を進めることはできるが、目標を明確に持ち、それに向けて自ら学習計画を立て、実践している生徒はまだ少ない。 本年度も新型コロナウイルス感染症の影響で、オープンキャンパスやSSH研究講座などに参加する生徒がこれまでより少なく、体験を通じて自分の将来について考えたり、興味・関心のあることに積極的に取り組む機会が不足していた。 	<ul style="list-style-type: none"> 差別やいじめを他人事と捉えることのないよう、差別やいじめにつながっていく意識やそのプロセスを理解させた上で、自分はどうすべきかを考えさせたい。 HRや人権学習の時間だけでなく、日頃の生徒たちの言動を注意深く観察し、適切な指導や声かけを行う。 普段から生徒とコミュニケーションをとり、個々の生徒の理解に努める。 教員間での情報交換を密に行う。 授業や個別指導を通じて、それぞれの生徒に応じた学習方法を指導するなど、継続的に学習することの大切さを実感できる機会を増やす。 キャリア教育に係わるものや、学校内外の様々な講座などを教員が熱意をもって紹介することで、生徒の積極的な参加を促す。 生徒が本当に自分がやりたいことを見つけ、それに向けて前向きな気持ちで努力を続けられるよう、進路目標の設定に関しては単なる紹介に終わらず、モチベーションを高めるような働きかけを工夫していく。 	
		学校行事等を通して、集団生活における個人の役割を認識させ、自ら考え、適切に判断し、共に行動できる力の育成に努める。	A				
進路指導部と連携して生徒に適切な情報を提供し、基礎学力の向上とキャリア教育を推進し、自らが進路を切り開く意欲を持たせる。		B					
グローバルな視点をもった地域リーダーの育成	日々の授業における探究活動を通して、基礎的かつ専門的な知識および研究技能を培うとともに、答えのない問いと向き合う姿勢を育む。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 課題研究に熱心に取り組んでいる生徒も多く、休み時間に研究テーマを話題にしたり、放課後にも研究に取り組む姿が見られた。 目標や目的が見つけづらい生徒や課題研究に消極的な生徒もおり、指導に苦慮した。またテーマの展開の難しさも感じた。 新型コロナウイルス感染症の影響で登校できない期間があり、課題研究が当初の予定通りには進まなかったのが残念である。 自らの課題に向けて論理的に考える力を養う姿勢を持つことができた生徒も少なからずいた。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題研究の結果ではなく、探究する姿勢、課題研究のプロセスこそが今後、大学や自分の将来に生きてくることを再認識させたい。 生徒が他者と協働しながら自分の課題を掘り下げていくという、教員の共通認識が大切。 課題研究の時間だけでなく、各教科の授業などにおいても、生徒に課題を見つけさせ、それを教員が辛抱強く見守り、問いかけ等を工夫していく必要がある。 学校内だけでなく、外部の大学教員や社会人の話が聞ける機会を増やすことによって、さらに充実したものになるのではないか。 		
	他者と協働しながら自らの課題を掘り下げさせることで、多様な視点と論理的・批判的な思考力を身につけさせるとともに、俯瞰的な視点を育てる。	B					

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果 (A～E)		成果と課題	改善方法等	学校関係者評価 (結果・分析)及び 改善方法
第3学年	自ら考え、行動できる生徒の育成	学校教育活動の様々な場面で、生徒自身が、常に「なぜ、そうするのか」「今、何をすべきなのか」「いつまでにすべきなのか」を考え、またその過程で、「このままでよいのか」「他により良い方法はないのか」を考えさせることで、自ら考え主体的に行動できる生徒を育てる。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・最上級学年になり、自分の将来を見据えて主体的に行動できる者が増えた。また、生活全般で制限を強いられ、主体的に行動できる機会が失われることが多かったが、その中で自律した様子が見受けられた。 ・予想外のことが起きたり、自分の思うような結果にならなかつた時に、前向きに今できることを考えられない者もいる。 ・「このままでよくない」「他によりよい方法がある」と考えたことを、行動に移せていない者もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・何事においても長期的な視点で計画性をもって取り組ませる。 ・小さなことでも生徒に挑戦させて、考えさせることで経験値を積み、たくましい心を育てる。生徒同士が考えを出しあって思考を深められる場を設定するなど、生徒たちが計画、立案し、実行しようとする環境を作る。教員は、それを見守るが、常に問いを投げかけたりして、自分たちに行動の責任があることを実感させたり、目標達成のための方法を全て伝えるのではなく、どの段階に自分がいるか俯瞰できるような声かけをしたりする。 ・一人で抱えこまずに、困ったり辛くなったりした時に、適切に周囲の人に頼るバランス感覚を身につけさせる。 	概ね良好である。
	自律的な生活態度の育成	生徒の自己管理意識を高め、校則を遵守させるとともに、社会のルールやマナーを身に付けさせる。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・校則がある理由が理解できず、守れていない生徒もいたが、ほとんどが社会的ルールやマナー、他への思いやりの心を育み、適切に行動できた。優しく思いやりがあり、周囲との調和を重んじている者が多い。 ・コロナ禍の影響により、畝高祭や体育大会が規模を縮小して実施されるなか、その制限ある条件を最大限に活かそうとする生徒の姿は立派であった。 ・学力の伸び悩みからくる不安等で、体調を崩す生徒がおり、特に2学期は欠席が目立つようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・きまりを守ることの大切さを伝え続ける。生徒が「きまりを守っていない自分を周りに表している」ということを自覚させる。校則に関しては、時代の流れにそぐわないものもあり、見直しも必要である。 ・教員間での情報共有や共通理解を密にする。校内(学年間統一)の見解が必要。 ・オンライン活用が多くなるほど相手が見えなくなってしまうので、直接コミュニケーションがとれる機会を減らさないように工夫する。教員も生徒も落ち着いた時間の流れに身を置き、生活習慣や将来のことを話しあい、信頼関係を深めることが大切である。 ・「慮る」ということの大切さは、卒業後も生涯を通じて肝要なことなので、学校の教育活動のあらゆる場面で声かけなどを行う。 	
		各教科の授業の中やホームルーム等を通して、人権尊重の精神を深め、他人を思いやる豊かな心を育成する。	B				
		すべての学校行事を通して、集団生活における個人の役割を認識させ、主体性と責任感をもって適切に行動できる生徒を育てる。	B				
	進路実現に向けての学力の向上	各類型ごとでそれぞれの生徒の実態に合った授業を工夫することで、個々の進路実現に資する学力の伸長を図る。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学力の下位層の二次力、共通テストへの対応力がつかなかった。一部の科目で習熟度別に授業できたことはプラスに働いた。 ・放課後や昼休みを利用し、生徒と密にコミュニケーションをとるなどしてきめ細かく指導し、進路実現に向けて共に考えることができた。昨年度末の反田さんの講演等でも、キャリア意識を高めることができた生徒も多かった。 ・塾の学習指導、進路指導との違いが生徒の混乱を招いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・求められる学力の変化、大学入試傾向の変化を敏感に捉え、授業や課題の内容を工夫していく。例えば、各教科で習熟度別講座を設ける、教科によっては早期から授業で共通テスト対策の問題演習を行うなど。また、教室にモニターを設置するなど、教育環境も整えていくべき。 ・第一学年からもっとキャリア意識を高めることが必要である。早い時期から自分の将来像に意識を高めさせ、見通しを持たせることが大切。大学入試(特に私立)の選択肢を広げるため、GTECを含む英語の資格をとるなど自己の目標にあわせ、早期の段階から取り組ませる。 ・生徒も教員も落ち着いて学習したり個別指導するための時間の確保が必要。 ・コロナ禍での実現は無理なところもあるが、進路に関する集会の機会をもう少し増やしてもよいと思われる。夏休み前や10月下旬など。授業を欠席するとどういった結果が待っているか、塾に軸足を置くかどうかということになるかなど、判断は個々の生徒が行うこととして、「今何をすべきなのか」を考えるきっかけ作りの機会をいかに増やしていくかが今後の課題である。 	
		生徒のキャリア意識を高めることで、主体的で、継続的な学習態度を育成する。	B				
		生徒ひとりひとりにきめ細かな進路相談を実施することで、生徒個々に応じた自己実現と第一志望の目標達成を目指す。	A				
	グローバルな視点をもった地域リーダーの育成	アドバンスコースに所属する生徒自身が課題研究発表を行うことで、実行力、調整力やコミュニケーション力を養い、自分の役割に対する責任感をもたせることでグローバル・リーダーに必要な使命感を培う。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・アドバンスコースに所属する生徒は、高い意識をもって主体的に課題研究に取り組み、情報収集力や行動力に優れていると感じる。それ以外の生徒も、自分で一歩踏み出して学内外のイベントやプログラムに参加した生徒は、その後積極性を高めているようである。一人でも多くの生徒にそのような経験をしてもらいたい。 ・昨年のコロナによる休校や分散登校によりグローバルな視点に立って学習する場が少なかったこともあり、3年次になり、系統的な流れを作ることができにくかった。 ・未来創造講座は、受講者の数によるが、生徒のニーズに合わせた指導ができ、おおむねよかったと思う。一方、集中して取り組めたかなどの課題もあり、どれだけの生徒が実力向上を得られたかの疑問は残る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題研究αの講座や、学校で案内するプログラム等で、自身の将来や興味関心に関係するものは特に積極的に参加するよう促す。学校関係者以外の人との交流、接触を通して、自分と社会との関係性を考えることができるようになると思う。 ・未来創造講座の設定、選択時に的確なアドバイスをを行い、変更も促していく。4月当初に、どの時期にどんなことをするのかを各科目で整理し生徒に提示した方が、生徒も計画的に受講できる。 	
		3年間を通して培ってきた思考力や俯瞰的な視点を基に、未来創造講座を通してさらなる資質の向上を目指す。	B				

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果 (A~E)	成果と課題	改善方法等	学校関係者評価 (結果・分析)及び 改善方法
国語	国語文化を広く深く理解し、社会生活を営む上で必要な国語力を養成する。	予習・復習の習慣化を図り、生徒の自主的な学習態度を養うとともに、語彙・文法等の基本的な知識を確実に習得させる。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・急な日程変更等で授業時間の確保が困難な中、進度を工夫し、語彙や文法の基礎事項や知識の習得や定着を図ることができたが、意欲や学ぶ姿勢に個人差もみられた。 ・授業の予習や、定期考査のやり直しは習慣化した。また、古語テストの取組による語彙の定着を図ることができたが、主体的にかつ計画性を伴って取り組ませる必要がある。 ・GoogleClassroomを活用した授業展開により、他者と協働し、ものごとを多角的に捉える視点を身に付けさせる学習が充実した。 ・「学びのナビゲーター」を予定通り進めることができないこともあったが、担当者間の打合せをその都度行い、修正を加えながら指導方針を均一化できた。 	・基礎知識の徹底が図れなかった生徒については、個々に丁寧に対応し、定着に向けた指導方法を工夫していく。	概ね良好である。
		辞書・参考書・問題集を活用しながら、指導法に創意工夫を凝らし、生徒の論理的な思考力、読解力、表現力の伸長を図る。	B		・知識の定着が、学力の向上につながっていることを実感させる授業展開を目指す。	
		自分と異なる立場にある相手に自らの意見を発信したり、コミュニケーションをとったりして、幅広い視野に立って協力しながら課題を追究し問題解決に導いていく力を身に付けさせる。	B		・一人一台端末の導入・活用について、さらに学ぶ意欲が喚起できる教材や指導方法を工夫していく。	
		「学びのナビゲーター」を活用し、教材に応じた学習のポイントや、手段、目標を明確にするため、担当者間の打ち合わせを密に行う。	B		・担当者間の共通理解を一層深め、情報や課題を共有し、指導に生かしていく。	
地歴	日本史、世界史、地理への認識と理解を深め、主体的に生きる自覚と資質を養う。	歴史や地理に関心をもたせ、幅広い知識を身に付けさせる。自分たちの暮らしや考え方を客観的に分析し、それらがなぜそうなったのかを問う姿勢を養い、研究することの楽しさや意義を身につけさせる。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインと通常の授業を併用した際の、教材の精選、授業の展開について、情報共有を図りながら行うことができた。 ・来年度から始まるBYODを意識した、教材の精選、授業の展開について話し合う機会があまり持てなかった。 ・受験に向けての学習に取りかかるのが遅い生徒がまだまだ多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・限られた授業時数の中で、ICT機器等を活用した生徒が主体となる授業や、大学入試共通テストでみられる史料や図表、データを読み取って考えさせる授業の展開を検討したい。 ・担当者や科目・教科間の連携を密にし、課題設定や教材の工夫、指導方法や評価の仕方について提示・統一化していく。 ・内容の精選に努め演習の時間を確保し、入試に対応できる学力を養成する方法を工夫していく。 	概ね良好である。
		史料や図表、地図、統計を有効に活用し、歴史事項や地理的事象の理解を深める。	A			
		各科目の授業内容を充実したものにするために、教員間の連携を密にし、科目をこえて研修を行う。	B			
公民	現代社会の特質や課題を把握させ、民主社会の一員としての自己を探究させる。	グローバルとローカルという2つの視点から、現代社会が抱える諸課題や、政治、経済、社会について学習する。また、自ら主体的に課題を設定し、その解決に取り組み、探究的な活動や発表を行うことで問題解決能力を養う。3年次に学ぶ政治・経済に対する学習意欲を高め、より発展的な学習につなげる。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインと通常の授業を併用した際の、教材の精選、授業の展開について、情報共有を図りながら行うことができた。 ・大学入学共通テストを念頭に置いた、時事問題やデータ・図の読み取りから考えさせる授業を展開することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・限られた授業時数の中で、ICT機器等を活用した生徒が主体となる授業や、大学入試共通テストでみられる史料や図表、データを読み取って考えさせる授業の展開を検討したい。 ・担当者や科目・教科間の連携を密にし、課題設定や教材の工夫、指導方法や評価の仕方について提示・統一化していく。 ・新聞、ニュースなどの時事問題を有効に活用し、その問題を知識として知るだけでなく、課題に対する自分の意見を論理的に説明できる力を養う。また、内容の精選に努めながら演習の時間も確保し、入試に対応できる学力を養成する方法を工夫していく。 	概ね良好である。
		日本や世界の哲学・宗教を学ぶことにより、主体的な自己の在り方、生き方という倫理的課題を探究させる。	B			
		日本や世界の政治・経済を学ぶことにより、社会の構造を理解させ、時事問題にも関心をもたせる。	B			
		各科目の授業内容を充実したものにするために、教員間の連携を密にし、科目をこえて研修を行う。	B			
数学	数学における基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、様々な事象を数学的に考察し処理する能力を養う。	教員間で互いに授業を公開することにより、アクティブラーニングなど効果的な指導方法についての研修を計画的に実施する。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・9月上旬にはオンライン教材の作成、研究を進めることができた。 ・互いの授業を見学する機会を昨年度よりは持つことができた。 ・教材や考査問題等には、共通テストを想定したものを幅広く取り入れることができた。 ・大学入学共通テスト本番の問題については、昨年度よりも読解力を必要とする問題が多く出題され、全国平均の低下とともに本校の平均点も大幅に低下した。 ・9月上旬に遅れた部分は、授業や講習などのもち方を工夫することでなんとか取り戻せた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も新型コロナ等の影響で対面授業に制限がかかることも考えられるので、オンライン教材の準備や年度が変わっても使えるようなものの作成を考える。 ・大学入学共通テストについて、どのような観点で問題が作成されていたのかを分析し、今後にも対応できるような指導法を考える。 	概ね良好である。
		大学入学共通テストでは、主体的な思考力が問われるため、より柔軟な思考力や考察力が身に付くような授業展開・考査問題を検討し、生徒の意欲を向上させる教材を作成する。	B			
		科目担当者間で授業内容などの打ち合わせを定期的に行い、観点別評価を意識した授業計画、考査作成を推進する。	A			

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果 (A~E)	成果と課題	改善方法等	学校関係者評価 (結果・分析)及び 改善方法
理科	自然への関心・意欲を高め、基礎的・基本的な内容の定着を図るとともに、思考力・判断力を身に付けさせる。	教材・指導方法の工夫を図り、学力向上・進路実現へとつなげていく。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ハイフレックス型の授業を行った際には、オンライン教材を活用できた。教員間で教材や授業の展開方法について情報共有を行い、基本的な知識・技能の定着を図ることができた。 ・大学入学共通テストにおいて、図表や会話文などを読み取る力を身につけられるよう、問題演習に取り組んだ。 ・観察・実験等は昨年と同じ形で実施できた。また、実験器具が充実しているものは、昨年より効率的に行うことができた。生徒実験に関しては今後も回数を増やしていきたい。 ・生徒が学んだことを言葉で表現する機会を設け、生徒同士や教員と生徒の対話する時間を増やした。しかし、それを負担に感じている生徒も見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が主体となって実験の準備を行ったり、図表やデータを読み取って考えさせる授業の展開を検討する。 ・ICT機器等を使用し、45分のなかで効率よく実験を行う。 ・生徒が進んで発話するような授業展開と雰囲気作りを目指す。 	概ね良好である。
		問題集・参考書等の副教材を活用し、主体的な学習習慣・思考力を身に付けさせる。	B			
		観察・実験等を通して自然の諸法則を理解させ、科学的に考察する能力を育成する。	B			
		授業で学習した内容を日常生活と結びつけさせ、自分事として捉える力を引き出す。	B			
保健体育	運動技能の向上と生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育成する。	個の能力に応じて運動技能を高めるとともに、自発的、自主的かつ安全に運動を行い、公正、協力、責任、参画等の態度を育成する。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの感染防止に留意しながら活動できた。個に応じた練習方法を学ぶことにより、自発的・自主的に運動に参加する生徒が増えている。グループのリーダーの育成が課題である。 ・精神の健康・体の健康について学び、知識と実践力を身に付けさせている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習段階に応じたリーダーの育成について、技術・知識とともに、言語活動を充実させグループの運営を主体的に行わせたい。 ・アクティブラーニングを検証し、より主体的な学びの授業を展開させたい。 	概ね良好である。
		心と体を一体とし、健康の保持増進のための実践力を身に付けさせる。	A			
	生涯を通じて自らの健康を適切に管理する資質や能力を育成する。	自らの健康を保持増進できる能力と自他の安全に配慮できる能力を育成するとともに、家庭及び社会生活での健康、安全の確保について理解させる。	B			
芸術	芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育て、感性を高め、豊かな情操を養う。	五感を鍛え、様々な用具・楽器の特性・技法を自主的に学ぶことにより、豊かな表現力の向上を図る。	A	<ul style="list-style-type: none"> 様々な用具・楽器にふれることによって、生徒の関心や知識も深まり、自ら考えて表現に臨もうとする生徒が増えてきた。授業を楽しむ姿の中にも、表現力と集中力が養われた。 作品や楽曲の鑑賞を通して、作者の意図や作風、人間性、歴史的背景などに触れ、芸術作品をより深く味わい理解した。主体的に学ぶ姿勢が培われたことによって、創作活動や表現活動に対するモチベーションも上がった。 今年度も、新型コロナウイルス感染症の影響により、展覧会や演奏会の多くが中止、延期となった。そのため実際に美術館やホールを訪れて鑑賞する機会を十分に設けることができなかった。ただ、オンラインを利用した教科研究会へは積極的に参加できたので、交流の機会は充実していた。交流で得たものを各自の創作活動に生かし、授業の質を高める努力をした。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業で学んだ知識や技術を、生徒が個々の表現に生かせるように、教材研究の幅を広げて授業の質をさらに高めたい。また、ICTを活用し、映像や画像を用いて、より具体的な作品例を提示するなど、情報や知識を共有した幅広い学習活動につなげられるように、展開方法も工夫する。 鑑賞教材の時間設定を検討するとともに、生徒が芸術への興味や関心を持ち、意欲的に取り組んでいけるように配布資料と説明の仕方を工夫する。「生活の中での芸術の働き」について考えを広げていくことができるように、一つ一つの作品をできるだけ丁寧に取り上げる。生徒にとって、より主体的な活動へとつなげていけるように指導する。 オンライン研修会などをさらに積極的に活用し、他校の芸術科教員と意見交換を重ねながら、授業の質をより高く追求していく。他校種・他教科の教員との交流も積極的に取り組む。研修会だけでなく、県や市町村の講座にも積極的に参加しながら、より広い視野に立って情報収集を行う。 	概ね良好である。
		芸術作品の鑑賞を通して、その特徴や作者等について理解を深め創作活動に生かす。	B			
		授業公開や教科の研究会への参加を積極的に行い、指導力の向上を図り、授業の質を高める。	B			

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果 (A～E)	成果と課題	改善方法等	学校関係者評価 (結果・分析)及び 改善方法
英語	学習の内容が生徒に定着するように、基礎・基本の徹底を図り、学んだことを用いて表現する力を育む。	観点別評価の研究を深め、授業や評価において実践する。	B	観点別評価については、各学年で検討し評価を行っているが、来年度の新しい観点別評価について、教科全体でよく研究し、評価方法について検討する必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度から始まる、新しい観点別評価について教科全体で研修する機会を設定する。 ・学習指導要領改訂に当たり、各科目の年間計画や単元別目標、評価方法について、教科全体で十分協議し、共通理解をもつ。 ・来年度1年生の英語コミュニケーションと論理表現は、これまで以上に4技能を意識した教科書内容になっているが、学校設定科目である、グローバル英語で生徒に身につけさせる能力を明確にし、他の2科目と有機的に連携させる。 	概ね良好である。
		各学年の目標や指導内容、指導方法、使用教材を吟味・精選し、目的をもった指導を行う。	B	使用教材については学年ごとに吟味しているが、教科全体として吟味する時間をさらに設ける必要がある。大学入学共通テストについて、多くの演習時間を確保し、対策することができた。		
		生徒に家庭学習の方法について具体的方法を指導する。また生徒の個々の実態に応じて、補充指導等を行う。	B	在宅学習中、google classroomを使用し、課題の指示や回収を行い、授業動画や問題集の取り組み方などを配信し、効果的に学習ができるよう指導することができた。		
		各教員が授業力の向上を目指し、互いの授業を公開し合い研鑽をつむ。	B	特に11月の研修期間などを利用し、各先生方の授業を見学し研鑽を積むとともに自らの授業の組み立て方を工夫した。		
		学校設定科目「グローバル英語」において発信活動における基礎を固め、生徒たちの言語活動が2、3年次においてより充実したものになるよう、指導の工夫をする。	B	「グローバル英語」の内容や進め方についてALTと議論を進めたが、時間の確保や連携が課題であると感じる。グローバル英語の授業で、英語で積極的に発信する機会を与え、パフォーマンステストを通して生徒の達成度をはかることができた。		
家庭	家庭生活に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、生活の向上に主体的に取り組む能力と態度を育てる。	感染予防を徹底しながら、効果的に各種実習を取り入れる工夫をし、家庭生活に必要な知識・技術を具体的に理解させる。	B	・調理実習は残念ながら今年度も実施することはできなかったが、教室で実施できる被服、保育、消費者に関する実習を行うことができた。	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍においても安全に実施できる実習をできるだけ多く取り入れ、生徒の実践的態度を育成したい。 ・4月からの新学習指導要領の実施に向けて、観点別評価について準備と計画を進める。 ・今後の様々な社会状況を見定めながら臨機応変に授業を行えるように、研修を重ねていく。 	概ね良好である。
		ホームプロジェクト・学校家庭クラブ活動により、家庭や学校、地域社会の生活の充実向上を図る能力と実践的態度を育てる。	B	・家庭クラブ活動では、外部機関との活動はできなかったが、校内の生活の改善に向けた取組を行うことができた。家庭クラブ委員ではない生徒の参加がなかったことが残念であった。		
		教科の研究会や研修会に積極的に参加し、指導力の向上を図る。	B	・消費生活センターのオンライン講座や教科の研修会に参加し、他校の取組に学んだり、授業で使用できる教材についても研修することができた。		
情報	情報の特徴と、情報化が社会に及ぼす影響を理解する。自主的にコミュニケーションを行う能力を養い、情報社会に積極的に参画する態度を育てる。	情報の収集・処理・発信などの情報活用能力や、プレゼンテーション能力を身に付けさせる。	A	・1年では次年度の課題研究とタイアップし、プレゼンテーション技法について、「課題研究メソッド」から抽出した内容を3学期の授業と実習課題で学習させた。	・他教科との連携を図り、ICTを活かす場面を作れたことが良かった。	概ね良好である。
		情報モラルとセキュリティに関する指導を徹底し、様々な場面で適切に対応できる態度を身に付けさせる。	A	・1年では、「事例でわかる情報モラル」をテキストとし、情報モラルと著作権、セキュリティに関する実習課題を行った。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒のスマートフォン使用はライン・ツイッターなどのSNSや、ゲームなどで使用することが多く、検索や情報を引き出し抽出することに慣れていない傾向がある。 ・特に情報モラルや著作権、セキュリティに注意しつつ、より信頼性の高い情報を入手する方法については今後も指導を重ねていく必要がある。 	
		情報と情報社会に関心を持ち、社会の情報化の進展に主体的に関わる態度を身に付けさせる。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・2年ではプログラミングやプログラミングの元となるフローチャート・アルゴリズムについて、スクラッチやVBAを用いて学習させた。 ・課題研究を振り返り、1年間を集約した。 		